

法話

# ながむる人のところにぞすむ

総本山知恩院布教師会会長 勝部正雄  
浄土宗奈良教区佛眼寺住職



昨年12月25日、法然上人御堂で開かれた「第621回おろくぎ文化講座」の法話要旨に加筆したものです



勝部正雄（かつべ しょうゆう）

昭和18(1943)年生まれ。奈良教区佛眼寺住職。  
京都文教小学校校長・中高副校長を歴任。  
浄土宗総本山知恩院布教師会副会長を経て、  
平成30(2018)年から布教師会会長。

## ●「月かげ」は、物質世界をも透す不思議な「ひかり」

「月かげのいたらぬさとはなければもながむる人のところにぞすむ」

これは、法然上人さまが御道詠くださった「月かげ」のお歌で、浄土宗の宗歌と定められています。このお歌は文保3年（1319年）の『続千載集第十卷』にも記されていますが、それ以上に貴重な書籍であります。法然上人の御伝記の『法然上人行状絵図』第三十卷に収録されています。そこには『観無量寿経』の中で説かれています阿弥陀仏のお相・「仏身観」の經典の一文とともに次のように記されています。

光明遍照十方世界、念仏衆生撰取不捨のころを、

月かげのいたらぬさとはなければもながむる人のところにぞすむ

と説いてくださってあるように、お歌の上の一節は光明遍照の心を、下の一節は撰取不捨の意をお詠みくださっています。何度もお称え致しますと、心の中へ広々とした大自然や人々の世を静かに照らす月光のようすが想われることです。何と清らかで涼しいお歌でしょう。

この光景は、私たちにとりましてはこの世の月光ですが、上人におかれましては仏さまのいらっしゃる世界のお浄土であったと仰がせていただくことです。時に、建暦二年（1212年）正月のご様子のご様子であります。『法然上人行状絵図』第三十七卷に実に尊く気高い御往生の御様子が伝えられています。ここでのご紹介は控えさせていただきますが、最後にお遺しくくださった偈文が「光明遍照…」の「撰益文」の御言葉でした。この上人さまの御様子をどのよう